

伊藤通算4勝目

スキージャンプ 15日
W杯
 女子は、韓国の平昌で五輪プレ大会を兼ねた個人第17戦(HS109)があり、20歳の高梨沙羅(クラシ)が224.9点で2位に入り、2戦を残し2季連続4度目の個人総合優勝を決めた。スキージャンプの4度の個人総合優勝は、1990年代にノルディック複合で3連覇した萩原健司さんを上回り、日本勢最多。高梨は1回目が97.5点で首位に立ったが、2回目に94点と伸びなかった。

沙羅 4度目総合V

1回目で首位に立ち、最終ジャンプとして飛んだ2回目。ランディングバーンを滑り終えた高梨が思わず、しゃがみ込んだ。「踏み切るタイミングが遅れてしまった。ここで(ミスが)出るかも」ともともと助走速度は速くないが、他のトップ選手に比べ、この日もスピードが出ていなかった。踏み切る間合いも合わず、「力が合っていない」と、欧州遠征を切り上げて日本で調整し、消したはずの迷いがまた、頭をもたげてきた。



「悔しい」2位 再び迷い

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。「結果を出せなかったのは準備不足。もっと深く考えないといけない」

■スキージャンプでの日本選手総合優勝

年	優勝者	種目
1993	萩原健司	ノルディック複合
94	萩原健司	ノルディック複合
95	萩原健司	ノルディック複合
2013	高梨沙羅	ノルディック複合
14	高梨沙羅	ノルディック複合
16	高梨沙羅	ノルディック複合

萩原健司さんを抜く

スキージャンプで4度目の個人総合優勝を挙げた高梨は、ノルディック複合で1992～93年から3連覇した萩原健司さんを抜いて日本人最多となった。萩原さんは「女子ジャンプが普及してきたにもかかわらず、世界のトップで居続ける。すごい」とたたえた。



高梨沙羅の1回目のジャンプ=いずれも林敏行撮影



表彰台で笑顔の伊藤有希(右)と高梨沙羅

逆転したが、「1回目は方がよかった。2回目はかなり大きいタイミングが外れた」という。ただ、ジャンプ台との相性は悪くない。「好きな合にはいきなつかんだものは大きい。5点で今季4勝目を挙げた」

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。

「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。

結果を出せなかったのは準備不足。もっと深く考えないといけない

平昌では16日にも試合がある。不安は早めに消しておきたい。

(※井正基)

逆転したが、「1回目は方がよかった。2回目はかなり大きいタイミングが外れた」という。ただ、ジャンプ台との相性は悪くない。「好きな合にはいきなつかんだものは大きい。5点で今季4勝目を挙げた」

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。

「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。

結果を出せなかったのは準備不足。もっと深く考えないといけない

平昌では16日にも試合がある。不安は早めに消しておきたい。

(※井正基)

逆転したが、「1回目は方がよかった。2回目はかなり大きいタイミングが外れた」という。ただ、ジャンプ台との相性は悪くない。「好きな合にはいきなつかんだものは大きい。5点で今季4勝目を挙げた」

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。

「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。

結果を出せなかったのは準備不足。もっと深く考えないといけない

羽生追う チェンとチャン

フィギュア 15日
四大選手権
 16日、2018年平昌五輪のプレ大会として韓国の江陵アイスアリーナで開幕する。優勝候補の羽生結弦(ANA)や宇野昌磨(中京大)、若手でも勢を伸ばしているチェン・ナン(米国)と、ベテランのパトリック・チャン(カナダ)だ。

先月の全米選手権で初優勝した17歳のチェンは、羽生のことを「僕にとってアイドルのような存在」と語り、憧れの羽生をジャンプ力で超えようとしている。羽生がフリーで跳ぶ4回転は、ルールで跳ぶことができない。チェンとチャンは、全米選手権のフリーでルッツ、フリップ、サルコワを1度ずつ、トーループを2度、成功させた。四大大陸ではサルコワを外す予定だが、

き、何球かは実際にマウンで踏み出して投げ込んだ。無理やりペースを上げることはできない、無理のない範囲で上がっている」と大谷。チームが本格的な実戦に入るなか、我慢の日々が続く。

徳島商の先鋒マウンドには、当然のように板東が上がった。しかし、剛腕もアクシデントに見舞われていた。前日の試合で走塁中にひざを痛め、試合前に痛み止めの注射を打った。三回でろくなって切れて、後半スビで落ちましたが、調子は悪くなかったと思えます。それでも、試合後は涼しい表情で語った。

王巻は3-1で迎えた八回裏。2死から2安打と死球で満塁とされた。一打同点のピンチに、魚津の打者は2年生4番の吉田。「(義夫(吉田)、打てぞ)」。5番の平内がユニホームのポケットにお守りを入れてくれた。吉田

板東の奪三振はこの時点で通算65個となり、大会記録を塗り替えた。それまでの記録は、世紀の剛球投手と呼ばれた楠本保(明石中)が第18回大会(1993年)につけた64個。その楠本は板東が幼少期を過ごした中国大陸で戦死している。28歳だった。

徳島商はそのまま3-1で逃げ切り、2日間に及んだ熱戦は幕を閉じた。決勝まで1人で投げきった板東は奪三振数を83個まで伸ばす。現在も大会記録として輝く。

逆転したが、「1回目は方がよかった。2回目はかなり大きいタイミングが外れた」という。ただ、ジャンプ台との相性は悪くない。「好きな合にはいきなつかんだものは大きい。5点で今季4勝目を挙げた」

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。

「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。

結果を出せなかったのは準備不足。もっと深く考えないといけない

平昌では16日にも試合がある。不安は早めに消しておきたい。

(※井正基)

逆転したが、「1回目は方がよかった。2回目はかなり大きいタイミングが外れた」という。ただ、ジャンプ台との相性は悪くない。「好きな合にはいきなつかんだものは大きい。5点で今季4勝目を挙げた」

平昌での試合には特別な思いがあった。サマージャンプで1度飛んだことはあったが、水の助走路では初めて、4位に沈んだ。リチ五輪から3年。来年の五輪本番を見据え、いいイメージを植え付けておきたかった。

「台の感触はつかみかけていたと思ったが、対応できていなかった。完全につかみ切れていない」と狙った試合を勝ちきれなかった。ジャンプW杯の通算最多勝利に並ぶかと注目され、重圧はいつも以上に大きかった。

バルサ大敗

サッカー 14日
欧州CL
 (フランス)に0-4で大敗。香川真司が所属するドルトムント(ドイツ)は、敵地でベンフィカ(ポルトガル)に0-1で敗れた。香川はベンチ入りしたが出場しなかった。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

決勝トーナメント1回戦第1戦、2試合があり、2季ぶりの優勝を目指すバルセロナ(スペイン)は、敵地パリ・サンジェルマン(フランス)に0-1で敗れた。

明治安田生命 Jリーグは、今年もみんなの地元を元気にします。

地域から、日本を元気にしたい。

だから私たちは、Jリーグ全54クラブを応援しています。

地元のJクラブ等のみなさまの協力を得て2016シーズンは、小学生向けのサッカー教室を全国で160回開催、約13000人のお子さまや保護者の方々が参加。そして、当社従業員とお客さまあわせて22万人の試合観戦、応援グッズの配布など。

3年目の今年も、Jリーグと共に地域を盛り上げていきます。

明治安田生命はタイトルパートナーとして、Jリーグを応援しています。